

令和7(2025)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価

令和7(2025)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価					各評価実施委員会 マイルストーン 点検評価							自己評価実施委員会 実施施策点検評価						R8(2026年度) 第1回内部質保証推進委員会 点検評価 (令和8(2026)年5月8日開催)					R8(2026年度) 第1回内部質保証推進委員会点検評価 改善指示 (令和8(2026)年5月8日開催)					
分野	施策 NO	実施施策	マイルス ト ン NO	2025年度 マイルストーン	担当委員会 ○が主担委員会	プロセス の達成度	KPIの達 成状況	成果物の 質・活用 性	費用対 効果	他部門と の連携効 果	次年度 以降への 展開性	総合評価	自己評価実施 委員会名	マイル ストーンの 達成度	KPIの達 成度	成果物の 質・活用 性	次年度以 降への展 開性	総合 評価	マイル ストーンの 達成度	KPIの達 成度	成果物の 質・活用 性	次年度以 降への展 開性	総合 評価	各評価実施委員会への改善指示				
教育分野	11	学修者本位の教育への転換・促進 (学修成果の可視化、客観的かつ厳格・公正・公平な成績評価及び単位認定、卒業認定等)	111	学修成果を可視化ツールと新しい評価基準の導入 教務委員会を中心に、各学部・学科、大学院企業情報研究科と連携して学修成果の指標を導入する（ルーブリック、コンピテンシーなど）	○教務委員会 大学教育センター運営委員会	4	3	4	0	5	4	A	教務委員会	4	3	4	3	A	4	3	4	3	A					
			112	基礎学力育成に向けたカリキュラムの調査 基礎学力育成に向けた科目の設置の必要性について学内調査を行うとともに、他大学での状況、高等学校での授業実施状況の調査を始める。	○教務委員会 大学教育センター運営委員会	5	3	5	0	5	4	A																
			113	評価基準の試験的導入 モデル学科やコースを選定し、学修成果の可視化と評価基準の試行を開始	○教務委員会 大学教育センター運営委員会	3	4	3	0	5	3	B																
教育分野	12	時代に即した授業形態の開発・発展 (デジタル社会に対応したリテラシー養成、対面授業と遠隔授業の長所を組み合わせた効果的授業等)	121	学生一人ひとりに最適化された学習体験の仕組みを検討 学生の学習進度や理解度に応じて、カスタマイズされた仕組みの卒業を検討する	○教務委員会	2	2	3	0	1	4	B	教務委員会	2	2	2	3	C	2	2	2	3	C	[改善指示][検討止まり]の状態から脱却し、「制度設計→実証→展開」のPDCAへ移行してください。 本施策に係る自己点検・評価については、全学自己評価実施委員会からの上申内容のとおり、各マイルストーンの進捗状況および成果内容を踏まえた評価は概ね妥当であると認められる。 一方で、事業全体としては評価Cとされており、進捗および成果の観点から課題が多く、継続・発展のためには抜本的な見直しが必要な状況にある。 このため、以下の事項について改善対応を求める。 1. 検討段階から実証段階への移行 本施策は、各取組が検討・調査段階にとどまっており、モデル授業の試行や教育効果の検証といった実証的取組が未実施である。次年度においては、必ずモデル授業の試行を実施し、教育効果および運用上の課題を具体的に把握すること。 2. 施策の具体化および実装計画の明確化 学生一人ひとりに最適化された学習体験およびハイブリッド授業モデルについて、本学の教育課程・授業運営にどのように適用するのか、対象科目、実施方法、運用体制等を具体的に整理し、実装に向けた計画として明確化すること。 3. KPIの見直しおよび達成水準の引上げ 現行のKPIは検討段階の到達目標にとどまっており、成果指標として十分とはいえないことから、試行実施やデモ授業の実施等、具体的なアウトプットを伴う指標へ見直すこと。また、施策の進捗が客観的に評価できる水準となるよう達成基準を引き上げること。 4. FD活動を通じた実践展開の強化 LMS（UNIPA）やAI活用等の先行事例について、調査にとどまらず、FD活動を通じて教員間で共有し、授業実践に結び付ける仕組みを構築すること。特に、実践事例の模展開を意識した運用体制を整備すること。 5. 改善計画の策定および報告 上記対応について、具体的な改善計画（モデル授業の試行計画、KPI見直し、実装スケジュールを含む）を「2026年度事業計画提案書」により取りまとめ、全学自己評価実施委員会へ提出すること。また、当該計画の進捗については、次回以降の全学自己評価実施委員会において報告すること。				
			122	対面授業と遠隔授業を組み合わせた授業モデルの検討 モデルコースを選定し、ハイブリッド授業を検討	○教務委員会	2	2	1	0	1	4	C																
教育分野	13	学生の学修効率の向上および学修時間の増大 (学生の学修状況の把握、授業時間や学期等の見直し、授業外学修を含め主体的・効果的な学修の励行等)	131	学生の学修状況の調査とデータ収集 学生の学修状況を把握するために、既存のアンケート結果や新たな調査にて学習データを収集。	○教務委員会	3	3	2	2	3	3	B	教務委員会	3	3	4	4	A	3	3	4	4	A					
			132	授業時間や学期制度の見直しに関する調査 現行の90分授業時間や2学期制の効果を分析し、見直しの必要性を検討。	○教務委員会	2	4	3	3	2	3	B																
教育分野	14	文理複眼的な思考ができる人材育成 (副専攻制度の充実、国内外他大学との単位互換促進等)	141	副専攻制度の現状分析と課題把握 現行の副専攻制度の利用状況を把握し、学生の文理複眼的(コンピューター・データサイエンス・社会科学の融合)思考に対するニーズや課題を明確化。	○教務委員会	3	3	4	0	1	4	A	教務委員会	4	4	4	4	A	4	4	4	4	A					
			142	教職課程教育の見直しと新たな改革へ向けた協議の開始	○教務委員会	4	5	2	0	1	4	A																
			143	国内外の大学との単位互換制度に関する調査 文理複眼的思考を養える科目を中心に、単位互換可能な国内外の大学との提携先拡大を検討し、協議を開始。	○教務委員会	3	3	4	4	1	4	A																
教育分野	15	AIに担えない真に人が果たすべき役割を考え実行できる人材育成 (後期教養教育、リベラルアーツ教育、課題解決力に重点を置いた教育、地域社会や企業との連携した実践的なスキル育成プログラムの実施、対外発信力の育成等)	151	後期教養教育とリベラルアーツ教育のカリキュラム点検 後期教養教育およびリベラルアーツ教育のニーズを改めて把握し、それに基づく新しいカリキュラム体系を開発。	○教務委員会	4	2	1	3	0	4	B	教務委員会	2	2	2	3	C	3	3	2	3	B					
			152	課題解決力向上プログラムの検討 キャリアゼミを中心に更に実践的な課題解決力を養う、実践的スキルを養い、地域企業と連携強化されたプログラムを再設計し、特定の学科等で検討	○教務委員会	2	3	1	4	0	4	B																
教育分野	16	多様な価値観を持つ多様な背景の人材の育成 (リカレント教育、リスキングプログラム、本学に適した留学生教育プログラム等)	161	リカレント教育とリスキングプログラムのニーズ調査 社会人や他分野に転職を考える人々のニーズを把握し、それに基づきリカレント教育・リスキングプログラムの設計を見直し。	○教務委員会	3	3	3	1	2	4	B	教務委員会	2	3	3	3	B	2	3	3	3	B					
			162	留学生教育プログラムの検討 本学の教育内容に適合する留学生教育プログラムを検証し、優秀な留学生獲得に繋げる。	○教務委員会	2	1	3	0	1	3	C																

令和7(2025)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価

令和7(2025)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価					各評価実施委員会 マイルストーン 点検評価								自己評価実施委員会 実施施策点検評価						R8(2026年度) 第1回内部質保証推進委員会 点検評価 (令和8(2026)年5月8日開催)					R8(2026年度) 第1回内部質保証推進委員会点検評価 改善指示 (令和8(2026)年5月8日開催)				
分野	施策 NO	実施施策	マイルス トーン NO	2025年度 マイルストーン	担当委員会 ○が主担当委員会	プロセス の達成度	KPIの達 成状況	成果物の 質・活用 性	費用対 効果	他部門と の連携効 果	次年度 以降への 展開性	総合評価	自己評価実施 委員会名	マイル スートの 達成度	KPIの達 成度	成果物の 質・活用 性	次年度以 降への展 開性	総合 評価	マイル スートの 達成度	KPIの達 成度	成果物の 質・活用 性	次年度以 降への展 開性	総合 評価	各評価実施委員会への改善指示				
研究分野	21	研究活動の推進・深化 (A I・データサイエンス教育研究所の研究促進、外部研究資金獲得、研究成果の情報発信強化、大学間連携による研究促進等)	211	AI・データサイエンス教育研究所の研究テーマと目標設定 研究所内での主要研究テーマを明確化し、短期・中期の研究目標を設定。	○大学教育センター運営委員会	4	4	4	5	4	4	A	学術情報委員会	3	3	3	3	B	3	3	3	3	B					
			212	外部研究資金の申請と獲得のための戦略立案 学内助成制度を見直し、外部研究資金を戦略的に獲得するための申請支援を検討	○学術情報委員会	3	3	4	3	3	4	A																
研究分野	22	研究環境の整備 (研究倫理の遵守、研究インテグリティの確保、図書館設備の充実、図書館利用環境の整備等)	221	研究倫理と研究インテグリティ確保に関するガイドラインの策定 研究倫理の遵守と研究インテグリティ確保のためのガイドラインを策定し、全教職員および学生に周知。	○学術情報委員会	3	4	4	4	0	4	A	学術情報委員会	4	4	4	4	A	3	2	3	4	B	[改善指示]「やったこと評価」から「達成したか評価」へ転換し、KPI未達を正しく評価する内部質保証を徹底してください。 本施策に係る自己点検・評価については、全学自己評価実施委員会からの上申内容のとおり、現行の評価はやや過大であり、見直しを行う必要がある。特に、KPIが未達であるにもかかわらず評価が高位に設定されている点については、評価の妥当性に課題が認められることから、マイルストーンの達成度「3」、KPIの達成度「2」、成果物の質・活用性「3」、次年度以降の展開性「4」とし、総合評価はA評価からB評価へ修正すること。 あわせて、以下の事項について改善対応を求める。 1. KPI未達に対する評価の適正化 研究倫理および研究インテグリティに関するガイドラインについて、当初設定したKPIである「策定・承認・周知」が未達であるにもかかわらず、代替的対応をもって成果と評価している点は適切とはいえない。今後は、KPIに基づき達成状況を厳密に評価し、未達項目については未達として適切に評価へ反映すること。 2. 制度化完了を基準とした成果評価への見直し 本施策の性質上、研修実施や資料整備といった取組の実施ではなく、ガイドラインの策定・承認・周知をもって制度として確立した状態を成果とする必要がある。このため、評価においては制度化の完了を基準とした評価へ見直すこと。 3. 未達項目の要因分析および制度化工程の明確化 利益相反・貴務相反に関するガイドライン等の未策定項目について、未達要因を分析するとともに、策定工程、所管、決裁時期を明確にした実行計画を策定し、確実に制度化を完了させること。 4. KPIの見直しおよび評価指標の再構築 現行のKPIについて、実施状況の確認にとどまらず、制度確立の達成度を適切に評価できる指標となるよう見直すこと。また、計画と評価指標との整合性を確保し、施策の進捗および成果が客観的に把握できるよう整理すること。 5. 改善計画の策定および報告 上記対応について、具体的な改善計画（ガイドライン策定工程、KPI見直しを含む）を「2026年度事業計画提案書」により取りまとめ、全学自己評価実施委員会へ提出すること。また、当該計画の進捗については、次回以降の全学自己評価実施委員会において報告すること。				
			222	図書館利用環境の現状調査と改善点の特定 図書館利用状況を調査し、必要な設備やインフラの改善点を特定。	○学術情報委員会	5	5	4	4	1	5	S																
研究分野	23	研究成果の社会還元と実装化 (研究成果を広く社会に還元するための仕組みを整備、成果発表会やシンポジウムを定期的に関催、一般向けの研究公開イベント、教育プログラム等)	231	研究成果を社会に還元するための仕組みの設計 研究成果を社会に還元するためのフレームワークやプロセスを設計し、関係部門と協議を進める。	○学術情報委員会	5	5	4	4	4	5	S	学術情報委員会	4	4	4	4	A	3	2	3	4	B	[改善指示]「根拠のない達成評価」の修正、「活動実績＝成果という誤認」の修正 本施策に係る自己点検・評価については、全学自己評価実施委員会からの上申内容を踏まえ、現行の評価はやや過大であり見直しを行う必要がある。特に、KPIの達成状況に関しては、個別の成果物の存在は確認できるものの、KPI全体としての達成状況および評価根拠の整理が十分とは言えず、評価の客観性および妥当性に課題が認められる。このため、マイルストーンの達成度「3」、KPIの達成度「2」、成果物の質・活用性「3」、次年度以降の展開性「4」とし、総合評価はA評価からB評価へ修正すること。 1. KPI達成評価の根拠整理（達成・未達の切り分けの明確化） 提出された根拠資料により、オープンアクセスポリシーおよび研究データマネジメントポリシーが成文化・公開されていることは確認でき、これらは研究成果の公開に係る基盤整備として一定の評価が可能である。しかしながら、KPIとして設定されている他の項目、すなわち産官学連携事業のWebサイト掲載数や研究成果の社会還元に係るフレームワークの設計、年間研究成果公開方針の策定については、具体的な実績値や目標値との比較、あるいは方針文書の策定・承認・運用開始の事実が明確に示れておらず、KPIと実績との対応関係が不明確な状況が見受けられる。 このような状況においては、KPIの一部が未達または達成状況が不明確であるにもかかわらず、全体として達成と評価することは適切とは言えない。今後は各KPIごとに目標値、実績値および達成判断の基準を明確に整理した上で、達成・未達を厳密に区分し、評価へ適切に反映することが求められる。 2. 「成果物の存在」に「KPI達成」の峻別 公開講座の実施等の活動実績は確認できるものの、これらは個別の取組の実施状況を示すものであり、KPIとして設定された「研究成果の社会還元に係る仕組みの設計」や「年間方針の策定」といった制度的成果の達成を直接示すものではない。このため、活動実績をもってKPI達成と評価することは適切ではなく、制度としての確立や運用開始の有無に基づき評価を行う必要がある。 3. 制度設計KPIの未達評価の徹底 本施策の中核である研究成果の社会還元に係るフレームワークについては、現状は構想・検討段階にとどまっており、制度としての運用プロセスが確立されているとは言えない。このため、当該KPIについては達成と評価することは妥当ではなく、制度確立をもって達成とする評価基準へ見直すとともに、未達項目については未達として適切に評価へ反映することが求められる。 4. KPI体系の再構築（成果指標と活動指標の分離） 現行のKPIは、ポリシー策定といった制度構築に係る指標と、公開講座等の活動実績に係る指標が混在しており、評価の一貫性を損なっている。今後は、制度構築、運用実績、社会的効果といった段階に応じた指標体系へ再構築し、KPIと実績との関係性を明確化することにより、施策の進捗および成果を客観的に把握できる評価枠組みを整備することが必要である。 5. 改善計画の策定および報告 以上を踏まえ、研究成果の社会還元に係る仕組みについては、関係部門間の役割分担および運用プロセスを具体的に整理し、制度として確立することが求められる。また、KPIの定義および評価基準を見直し、評価の客観性を確保するための改善計画を「2026年度事業計画提案書」において取りまとめ、全学自己評価実施委員会へ提出すること。あわせて、当該計画の進捗については、次回以降の全学自己評価実施委員会において継続的に報告すること。				
			232	研究発表会やシンポジウムの計画立案 定期的な研究発表会やシンポジウムの開催計画を立案し、開催時期やテーマを決定。	○学術情報委員会	4	4	4	3	4	4	A																

令和7(2025)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価

令和7(2025)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価					各評価実施委員会 マイルストーン 点検評価								自己評価実施委員会 実施施策点検評価						R8(2026年度) 第1回内部質保証推進委員会 点検評価 (令和8(2026)年5月8日開催)					R8(2026年度) 第1回内部質保証推進委員会点検評価 改善指示 (令和8(2026)年5月8日開催)				
分野	施策 NO	実施施策	マイルス トン NO	2025年度 マイルストーン	担当委員会 ○が主担委員会	プロセス の達成度	KPIの達 成状況	成果物の 質・活用 性	費用対 効果	他部門と の連携効 果	次年度 以降への 展開性	総合評価	自己評価実施 委員会名	マイル スートの 達成度	KPIの達 成度	成果物の 質・活用 性	次年度以 降への展 開性	総合 評価	マイル スートの 達成度	KPIの達 成度	成果物の 質・活用 性	次年度以 降への展 開性	総合 評価	各評価実施委員会への改善指示				
学生受入分野	41	選ばれた大学をめざし、新たな入試制度改革方針に沿ったブランドアップを図れる入試制度の構築（DXを活用した入学試験の実施、選抜入試での競争力の強化等）	411	DXを活用した入試システム等の検討と設計 デジタルトランスフォーメーション（DX）などを活用した入試システムの構築および入学試験実施の検討。	○入試実行委員会	5	4	4	0	5	4	A	入試実行委員会	5	5	4	5	S	5	5	4	5	S					
			412	入試制度改革方針に基づく新しい入試制度・奨学金制度第一段階を導入 競争倍率向上や偏差値向上を目指した新しい選抜方法の導入。	○入試実行委員会	5	5	5	4	4	5	S																
学生受入分野	42	多様な価値観を持つ多様な背景の人材の受入れ（年齢や国籍等を問わない幅広い学生の受入、編入学による受入等）	421	受入れ方針の策定と周知 多様な背景を持った学生の受け入れ方針を策定し、広く周知するための施策を立案。	○入試実行委員会	5	5	3	0	4	5	S	入試実行委員会	5	5	5	5	S	5	5	5	5	S					
			422	編入学制度の現状分析と改善点の特定 編入学の制度を評価し、受入れ体制の改善点を特定。	○入試実行委員会	5	4	3	0	3	4	A																
学生受入分野	43	高大接続の取組強化（教育基盤を軸とした高大接続の推進、多様な連携校の拡大等）	431	高大接続プログラムの設計と協議 教育基盤を軸とした高大接続プログラム拡大のための設計を行い、連携校や教育連携の可能性について協議を深化。	○教務委員会	5	5	5	4	5	4	S	入試実行委員会	5	5	4	5	S	5	5	4	5	S					
			432	連携校拡大のための候補校リスト作成と交渉 専願制入試における安定的な志願者確保を目的とし、連携校拡大のための候補校を特定し、教育連携に向けた交渉を開始。	○入試実行委員会	5	4	4	0	4	5	S																
学生受入分野	44	大学広報の強化（広報・マーケティング戦略の推進）（広報セクションの強化、ブランド・広報戦略の策定と運営等）	441	新たな広報セクションの検討と強化方針の策定 新たな広報セクションのあり方を検討し体制強化を図る。 また、具体的な広報方針とリソース配分を策定。	○大学管理事務運営委員会 入試実行委員会 法人管理事務運営委員会	3	5	4	4	2	4	A	大学管理事務運営委員会	3	4	4	4	A	3	3	4	4	A					
			442	ブランド・広報戦略の立案 大学のブランドイメージや広報方針を明確化し、それに基づいた広報戦略を策定。 学生募集広報では、「単年度から多年度へー幅広いステークホルダーへのアプローチー」の視点をもった広報戦略を策定。	○大学管理事務運営委員会 入試実行委員会	3	2	3	3	3	4	B																
学生支援分野	51	ディプロマ・ポリシーに到達できる学生への粘り強い支援（離学者の抑制）	511	持続的な離学者抑制のための分析と施策策定 過去の離学者データを改めて様々な方面から分析し、新たな離学要因を特定。離学率低減に向けた具体的な施策を策定し全学的に展開する。	○教務委員会 大学教育センター運営委員会 学生委員会	3	3	4	4	2	3	B	教務委員会	3	3	4	5	A	3	3	4	5	A					
学生支援分野	52	修学への支援（より効果的な入学前教育、学修支援体制の更なる充実、多様な学生へのきめ細かな支援、保護者との連携強化等）	521	より効果的な入学前教育プログラムの見直しと改善策の策定 これまでの入学前教育の現状を改めて分析し、より効果的なプログラムを設計。	○大学教育センター運営委員会 教務委員会	5	3	4	3	5	5	A	大学教育センター運営委員会	5	3	4	5	A	5	3	4	5	A					
			522	エンロールメント・マネジメントの観点からの学修支援体制の充実方針の策定 現行の学修支援体制を評価し、強化するための具体的な施策を策定。	○大学教育センター運営委員会 教務委員会	5	2	5	5	5	5	A																
学生支援分野	53	学生生活への支援（有効的な奨学金制度、クラブ・サークル等の加入率向上、通学環境の整備、学生相談室及び保健室の運用について、活発な国際交流支援等）	531	奨学金制度の現状分析と改善策の策定 現行の奨学金制度を分析し、より有効的な奨学金支援策を立案。	○学生委員会 国際交流委員会	4	3	3	3	3	3	B	学生委員会	3	4	4	3	A	3	4	4	3	A					
			532	クラブ・サークル加入率向上に向けた施策の検討 学生のクラブ・サークル加入率を向上させるための広報活動や支援策を検討。	○学生委員会 国際交流委員会	3	3	3	2	2	3	B																
			533	多様な通学手段の開発による通学環境の整備	○学生委員会	4	5	4	4	4	3	A																
			534	学生相談室及び保健室の運用について 心身に関する相談（カウンセリング）に関して現状の問題点等洗い出す。 また、それらに関する報告や審議については学生委員会に対応できる体制をつくる。	○学生委員会	4	4	5	4	3	3	A																
			535	国際交流支援活動の見直し 国際交流センターを中心として現状の問題点等を洗い出し改善を図る。 例えば、外国人留学生の日本語能力の状況や、留学協定校の見直し等。	○国際交流委員会	3	4	4	3	3	4	A																

令和7(2025)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価

令和7(2025)年度事業計画「実施報告」チェックリスト自己点検・評価					各評価実施委員会 マイルストーン 点検評価								自己評価実施委員会 実施施策点検評価						R8(2026年度) 第1回内部質保証推進委員会 点検評価 (令和8(2026)年5月8日開催)					R8(2026年度) 第1回内部質保証推進委員会点検評価 改善指示 (令和8(2026)年5月8日開催)				
分野	施策 NO	実施施策	マイルス ト ン NO	2025年度 マイルストーン	担当委員会 ◎が主担当委員会	プロセス の達成度	KPIの達 成状況	成果物の 質・活用 性	費用対 効果	他部門と の連携効 果	次年度 以降への 展開性	総合評価	自己評価実施 委員会名	マイル スートンの 達成度	KPIの達 成度	成果物の 質・活用 性	次年度以 降への展 開性	総合 評価	マイル スートンの 達成度	KPIの達 成度	成果物の 質・活用 性	次年度以 降への展 開性	総合 評価	各評価実施委員会への改善指示				
学生支援分野	54	キャリア支援 (就職支援体制の強化、実就職率の向上、資格取得に 関する支援の取組)	541	就職支援体制の現状評価と改善策の策定 就職支援体制の現状を評価し、対外的に訴求できる就 職実績の実現に向けた効果的な支援強化策を検討。	◎キャリア委員会	4	4	4	4	3	4	A	キャリア委員会	3	3	3	3	B	3	2	3	3	B					
			542	資格取得支援プログラムの設計 資格取得をサポートするための運営体制やガイダンス等 を見直し、時代に応じた支援プログラムを検討するととも に学部や授業との連携を模索する。	◎キャリア委員会	3	3	3	3	3	3	B																
組織運営分野	61	自己点検・評価活動の不断の見直し (内部質保証のシステムの強化、学生の意見や外部評 価を取り入れた改善・改革、教職協働による重点施策の 推進、第4期機関別認証評価への取組等)	611	内部質保証システムの現状分析と強化計画策定 現行の内部質保証システムを分析し、改善・強化策を 策定。	◎大学管理事務運営委員会	4	4	4	0	4	5	A	大学管理事務運営委員会	4	5	4	5	S	4	5	4	5	S					
			612	第4期大学認証評価の受審作業 認証評価受審に向けた作業を行い、大学基準協会提 出報告書の完成。	◎大学管理事務運営委員会	5	5	5	0	5	5	S																
			613	学生の意見収集と外部評価の取り入れ方法の設計 学生アンケートや外部評価のフィードバックを受ける仕組 みを構築し、改善プロセスに組み込む計画を策定。	◎大学管理事務運営委員会	3	4	4	4	3	4	A																
組織運営分野	62	地域や産業のニーズに応えられる学位プログラムの模索 (既存学位プログラムの検証、新大学設置基準に照らし 合わせた学位プログラムの見直し、財政基盤を踏まえた教 育研究組織等)	621	既存学位プログラムの現状分析と検証 2024年度に新設された学位プログラムの効果を分析 し、地域や産業のニーズに応じているかを検証。	◎大学管理事務運営委員会 法人管理事務運営委員会	-	-	-	-	-	-	-	大学管理事務運営委員会	3	3	3	4	B	3	3	3	4	B					
			622	新大学設置基準の調査と学位プログラム見直し方針の 策定 新大学設置基準に基づき、既存プログラムの見直し方針 を策定。	◎大学管理事務運営委員会 法人管理事務運営委員会	-	-	-	-	-	-	-																
組織運営分野	63	自由と清新の気風のもと、メンタルヘルスとウェルビーイングの 強化 (ハラスメントの撲滅、個人情報の保護、個人の尊厳に対 する配慮、組織的なSD活動等による教職員の資質向 上、学生・教職員の満足度向上等)	631	ハラスメント撲滅のための方針見直しと啓発活動の強化 ハラスメント撲滅のためのガイドラインや規程を見直し、全 教職員・学生を対象とした啓発活動を展開。	◎大学管理事務運営委員会 法人管理事務運営委員会	4	5	4	5	0	4	A	大学管理事務運営委員会	4	4	4	5	A	4	4	4	5	A					
			632	個人情報保護と個人の尊厳への配慮に関する教育プロ グラムの実施 個人情報保護と個人の尊厳に対する意識を高めるため の研修プログラムの実施。	◎大学管理事務運営委員会 法人管理事務運営委員会	4	4	4	0	4	4	A																
組織運営分野	64	大学運営体制の充実と効率化 (学長のリーダーシップに基づく取組の推進、組織的・継続 的なSD体制の確立、コンプライアンスの徹底、リスクマ ネジメントと危機管理体制の強化、情報公開の推進、大 学組織としての外部資金導入への取組み、業務効率化、機 構改革等)	641	学長のリーダーシップに基づく教学マネジメントの方針策 定 学長のリーダーシップに基づく教学マネジメントの具体的 施策や方針を策定し、全学的な共有を図る。	◎大学管理事務運営委員会 法人管理事務運営委員会	4	4	4	0	4	4	A	大学管理事務運営委員会	4	4	4	5	A	4	4	4	5	A					
			642	大学組織としての外部資金導入への取組み体制の環境 整備	◎大学管理事務運営委員会 法人管理事務運営委員会	3	3	4	0	3	4	A																
			643	組織的・継続的なSD体制の基本設計の見直しとDXに よる生産性向上 教職員の継続的な成長を支えるSD体制の設計を改め て見直し、組織的な体制づくりを強化します。またDXを 活用した生産性向上に取り組みます。	◎大学管理事務運営委員会 法人管理事務運営委員会	5	5	4	5	5	4	S																